

農業委員会だより

No.196

〒970-8026
いわき市平字堂根町4-8
TEL.0246(22)7534
FAX.0246(22)7538

編集・発行 いわき市農業委員会

農家と
農委を
つなぐ
広報誌



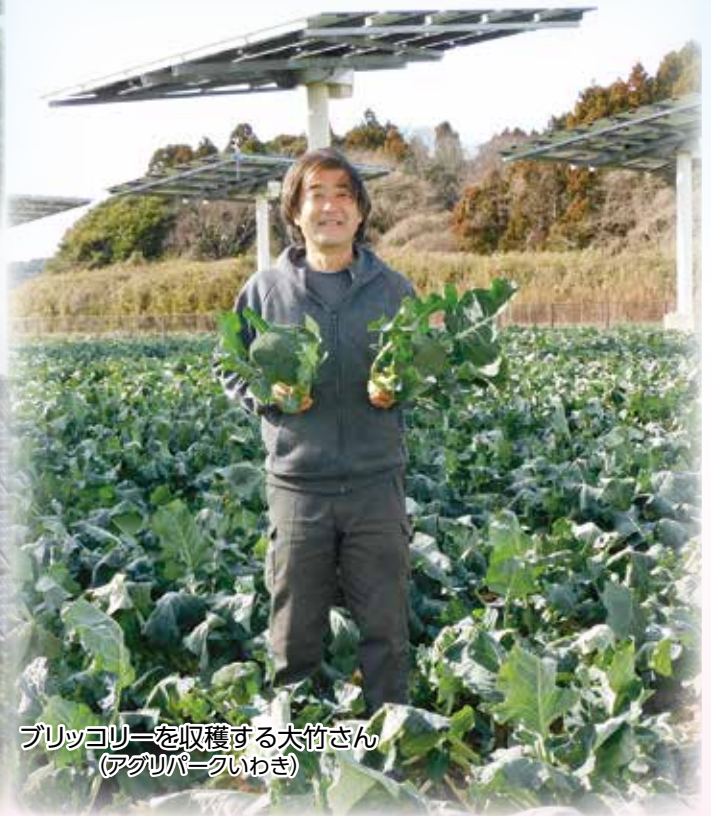
太陽光発電設備の下で
いちじくの栽培

作物も電気も 太陽の恵み！

—農業と自然エネルギーの共生—



畑に並んだ
太陽光発電設備



ブリッコリーを収穫する大竹さん
(アグリパークいわき)



令和4年度いわき市農林業賞 (詳しくは2ページ)

主な記事のご紹介

4ページ

- 農地流動化情報
- 農家の皆さんへお願い
- 福島県農地バンク

2ページ

- 令和4年度いわき市農林業賞受賞者決定

5ページ

- 令和5年いわき市農作業労働賃金標準額表

3ページ

- がんばる農業者
あの人 この人
- 今号の表紙から

6ページ

- 地区だより
- トピックス

令和4年度 いわき市農林業賞受賞者決定

いわき市の農林業の発展等に顕著な実績をあげられた農林業者等を表彰する「いわき市農林業賞」の令和4年度受賞者が決定し、2月1日(水)にクレールコート(内郷綴町)で表彰式が開催されました。

個人・団体の部(個人)



ひるた はしめ
蛭田 一さん(73歳)
田人町黒田

田人町にて長年に渡り間伐材搬出の効率化や森林整備の推進に携わってきた林業家であり、徹底した枝打ちや間伐を行い、良質な地域材の生産を行ってきたほか、平成13年に県の指導林家、平成17年にグリーンフォレストの認定を受け、林業後継者の育成にも取り組んできており、地域林業の振興に多大な貢献をしている。

イベント等において田人産材を使用した小物の制作体験、チェーンソー操作や材積計算の講習等、次世代林業者の育成や林業のPRを行うほか、令和2年4月からは市森林組合の森林・林業アドバイザーに就任し、森林整備における森林所有者への同意取得に尽力している。

青年の部



くさの じゅんいち
草野 純一さん(46歳)
三和町差塩

三和町にて畜産と水稲を行っている青年農業者であり、先代は平成29年度市農林業賞(個人・団体の部)受賞者で、本市初の全国和牛能力共進会優等賞も受賞されており、その畜産経営体の4代目として、令和2年2月に認定農業者の認定を受けている。

地域に先駆けてICT技術の導入、「借り腹」による生産量増加及び経費削減、家族経営協定の締結等、意欲的に農業経営の改善に向けた取り組みを行っている。

市内土木関係業者と連携して荒廃農地の再生、飼料の生産等、飼料の自給・循環型社会の形成に努めるほか、県内外の和牛繁殖農家との交流事業等の実施に取り組みなど、地域農業の振興に努めている。

貢献の部



もりふくしかい
NPO法人みどりの杜福祉会いわきワイナリー
(理事長 今野 隆さん(こんのたかし))

ワインを製造・販売する福祉事業所であり、原材料であるブドウを好間地区・久之浜地区で栽培している。

就労継続支援B型事業所として、その生産・醸造・出荷作業までの全工程において障がいのある方々が携わるなど、農福連携の取組みにより共生社会の実現に大きく寄与している。

令和4年4月に開催された「フエミナリーズ世界ワインコンクール2022」での金賞受賞をはじめ、同年11月に開催した「いわきワイナリー収穫感謝祭2022」も盛況であるなど、主にいわき産ワインを通じて本市農産物の振興、風評払拭に寄与するとともに、本市の魅力向上、魅力発信、ひいては地域経済活性化にも大きく貢献している。

貢献の部



おかべ みちる
岡部 美知瑠さん(17歳)
金山町

県立磐城農業高等学校食品流通科で畜産を専攻する高校生2年生であり、早朝や放課後などの空き時間を活用し、学業、部活動を両立しながら有志の一員として黒毛和種の飼養管理に取り組んでいる。

令和4年10月に5日間、鹿児島県霧島市、南九州市で開催され、5年に一度の開催から「和牛オリンピック」とも呼ばれる第12回全国和牛能力共進会の附帯行事である和牛審査競技会「高校生の部」に福島県代表として出場し、全39名中、福島県勢初となる最優秀賞(全国1位)を受賞し、畜産関係者等に強い励みを与え、地域に非常に明るく希望に満ちた話題を提供し、本市畜産の振興に貢献した。

がんばる農業者 あの人この人



な お ま さ
直 雅 さん (44歳)
か も
加 茂

プラスチックの容器に、桜やブナなどの広葉樹を細かく砕いたオガ粉を主原料とし、米ぬかやふすま、大豆など天然由来の栄養剤を混ぜ入れ、蒸気で殺菌した後、冷却室で冷やしてからなめこの菌を植え

「美味しいなめこを追い求めて、これからも挑戦し続けたい。なめこ本来の香りや食味にこだわり、徹底した品質管理のもと、これからおお客様に喜んで食べて頂ける『こだわりなめこ』を届けたい。まずは、私自身が食べたいなめこを、これからも徹底追及したい。」と今後の抱負を語って下さいました。

加茂農産がつくる『こだわりなめこ』は、一部の直売所やいわきのみならず、各スーパーでもお買い求めできますので、是非キングなめこやクイーンなめこも一緒にご賞味し、味の違いを感じてみてください。



イメージキャラクター
「いちかもん」



(撮影・執筆 岡村泰典)

今号の表紙から

表紙は、アグリパークいわきに設置されている大規模営農型太陽光発電設備です。場所は、夏井川北岸の河口から約500m遡った平下神谷南内記地内で、平成26年9月に農林水産省の「地域還元型再生可能エネルギー早期モデル確立事業」に採択されて設置されました。

地域還元型事業として、固定型の売電収入の5%が地域に還元されており、県立磐城農業高等学校の実習環境整備や、土地改良区の活動などにも活用されています。

支柱上の発電パネルが自動で太陽の方向を追いかける追尾型の太陽光発電設備は75基あり、その発電量は固定型の約1.5倍、追尾型と固定型あわせて最大約1MWの発電ができるそうです。その追尾型発電パネルの下は農地として利用されており、季節によっていちじくやかぼちゃ、現在は、約25,000本のブロッコリーが栽培されています。

設置者で営農者の鯨岡千春さんは、農業委員も経験し、営農型太陽光発電にいち早く取り組み、試行錯誤しながら栽培を行っています。同敷地内には大型ハウスの観光いちご園もあり約35,000本のイチゴが栽培され、6月上旬まで、県内外からいちご狩りに多くの人が訪れます。皆さまも一度足を運んでみてはいかがでしょうか。(撮影・執筆 新妻信夫)

『なめこ一筋40年』、今も進化し続ける有限会社加茂農産へおじゃましました。

加茂農産は、清流四時川が流れ、周囲は田畑や山に囲まれた自然豊かな山玉町で、なめこを栽培しています。代表の加茂直雅さんは、父から受け継ぎ菌床に使用する主材料から、なめこひとつ一つの色合いにもこだわり、小さなお子さんでも安心しておいしく食べられる『味を感じられるなめこ』をお届けしたいとお話していました。

■培養に70日間

加茂農産の『こだわりなめこ』は冷暖房が完備された施設の中で栽培されています。

■「二番なめこ」への挑戦

一般的な菌床栽培では、収穫は1回だけですが、加茂農産では同じ培地からもう一度なめこを育てています。1回目の収穫から約20日で二番なめこが発生するのですが、この2回目のなめこは一番なめこよりも大きく、味も香りもより天然物に近い風合いに育つそうです。この二番なめこの栽培は非常に難しいとされていますが、加茂農産では

付けます。植菌後、約70日かけてじっくりと菌糸を熟成させ、発生室に移動後、植菌から約100日目できるようやく一番なめこの収穫を迎えるそうです。

農地流動化情報 Vol.55

農業委員会では、耕作を目的とする農地情報の収集・提供を行っています。売買・貸借等の意向がある方は、是非ご相談ください。

◆売りたい

| No. | 農地の所在地 | 地目 | 面積(a) |
|-----|--------------------------|------------|-------|
| 1 | 平赤井字六の町 (1筆) (※貸地も可能) | 田 | 27.89 |
| 2 | 好間町北好間字菊竹(1筆) | 畑 | 3.30 |
| 3 | 平上平窪字原田 (4筆) | 畑 (ハウス) | 51.94 |

◆貸したい

| No. | 農地の所在地 | 地目 | 面積(a) |
|-----|---------------|----|-------|
| 1 | 田人町旅人字唐沢 (4筆) | 田 | 39.57 |

◎掲載している農地に関するお問い合わせは、4月3日(月)午前8時30分から受付開始します。



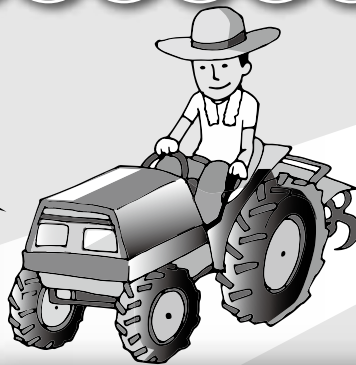
お問い合わせ先 農地調査係 ☎ (22)7574

農家の皆さんへのお願い

農業機械について 泥や土塊の後始末を

農作業後、農業機械で道路を走る際は、農地内で泥や土塊を落としてから運転しましょう。道路に落ちた土は、スリップ事故の原因になり危険です。

やむを得ず道路を汚してしまった場合は、すみやかに除去していただくようお願いいたします。



農業機械から落ちた泥や土塊を放置し、他の車両に損害を生じさせた場合、損害賠償責任を問われる可能性があり、また、道路交通法違反として罰則が適用される場合もあります。

お問い合わせ先 生産振興課 ☎ (22)7479

農地の貸借は 福島県農地バンクへ!

相続したので
誰かに頼みたい



高齢で農業を
やめたい

県内の担い手耕作面積 約54,000haのうち、農地バンク契約が
約11,700ha(約21%) (令和3年度末)となりました!

メリット

出し手 (農地を貸したい方)

契約が明確で、安心して農地を貸せます。

受け手 (農地を借りたい方)

契約・賃料精算事務の軽減が図られます。その他各種補助金の要件となっています。

農地を集約して
作業を
効率化したい!



農地を借りて
規模拡大をしたい!



ご相談・お問い合わせ

公益財団法人福島県農業振興公社(福島県農地バンク) 〒960-8681 福島市中町8番2号

TEL.024-521-9845(中通り・会津担当) TEL.024-521-9843(浜通り担当) TEL.024-503-0421(被災12市町村担当)

※または、農地の所在がある各市町村農政担当課・各JAまでご相談ください。



携帯・スマートフォンはこちらから

<http://www.fnk.or.jp>

令和5年 いわき市農作業労働賃金標準額表

いわき市農業委員会

福島さくら農業協同組合いわき統括センター



この標準額表は、本市の農林業における一般的な作業について、その標準的な金額を定めたものです。作業の受委託に当たり、**当事者間で委託料を協議するための“目安のひとつ”**としてご利用ください。

【請負労働作業】(消費税抜)

| 作業名 | 標準額(円) | 単位 | 摘要 | |
|------------------------|------------------|--------|-----------------------------------|---------------------------------|
| 育 苗 | 730 | 1箱 | ◎個人育苗硬化まで ◎配送料は別途 | |
| 耕 起 | 5,800 | 10a | ◎ロータリー耕 | |
| | 7,000 | 10a | ◎プラウ耕 | |
| 畔 ぬ り | 55 | 1m | ◎散水は別途 | |
| ブロード キャスター による施肥 | 500 | 10a | ◎1肥料1回 | |
| 代 か き | 6,700 | 10a | | |
| 田 植 | 6,500 | 10a | ◎側条施肥の場合、500円増し ◎薬剤等の場合、500円増し | |
| 防 除 (ドローン以外) | 900 | 10a | ◎薬剤費は別途 | |
| 防 除 (ドローン) | 1,500 | 10a | ◎薬剤費は別途 ◎50a以上の作業の場合 | |
| あ ぜ 草 刈 | 3,000 | 1時間 | ◎自走式草刈機を使用の場合 | |
| コンバイン | 28,000 | 10a | ◎ワラ結束の場合、 2,000円増し | |
| コンバインの内訳 | 刈り取り | 17,000 | 10a | ◎倒伏の場合は、話し合いによる |
| | 乾 燥 | 8,000 | 10a | |
| | 運 搬 | 3,000 | 10a | |
| も み 摺 | 350 | 30kg | ◎運搬を除く | |
| 同 時 | 450 | 30kg | ◎もみ摺・色彩選別機 同時の場合 | |
| 色彩選別機 | 300 | 30kg | ◎専用持込みの場合 | |
| く ず 米 | 100 | 30kg | ◎計量と持ち帰りが条件。 放棄する場合は、該当しない | |
| 畑作業 | 耕 起 | 5,800 | 10a | ◎ロータリー耕 |
| 果樹園業 | 薬剤散布 | 2,500 | 10a | ◎スピードスプレーヤを 使用の場合 ◎薬剤費は別途 |
| | トラクターモア による草刈 | 7,000 | 1時間 | |

【雇用労働作業】(消費税は課税されません)

| 作業名 | 標準額(円) | 単 位 | 摘 要 | |
|-------|---------|-----------|-----------|------------------|
| 水田作業 | 手 作 業 | 7,000 | 8時間(1人1日) | ◎よせ植え、 よせ刈りなど |
| | 機 械 作 業 | 10,000 | 8時間(1人1日) | ◎オペレーター 料金 |
| 畑 作 業 | 7,000 | 8時間(1人1日) | | |
| 果樹園作業 | 整枝剪定 | 10,000 | 8時間(1人1日) | |
| | 果樹一般作業 | 7,000 | 8時間(1人1日) | |
| 山林作業 | 手 作 業 | 9,000 | 8時間(1人1日) | ◎下刈りなど |
| | 機 械 作 業 | 12,000 | 8時間(1人1日) | ◎オペレーター 料金 |

【最低賃金】(雇用労働作業に適用)

| | | | |
|----------------|-----|--------|------------------|
| 福島県 最低賃金(円) | 858 | 1時間当たり | ◎令和4年 10月6日発効 |
|----------------|-----|--------|------------------|

【特記事項】

- 次のような場合は、当事者間で十分協議のうえ調整願います。
(注:この表は、10aの整理田を基準としております。)
(1)労働能力(例:年齢や経験など)や圃場条件(山間部と平坦部、乾田と湿田、未整理田、土壌条件、農道の状況など)に差がある場合
(2)燃料費の高騰など著しい経費の変動があった場合
(3)農作業機械の長距離搬送など追加の経費が発生した場合
(4)倒伏の程度が著しい場合
(5)この表に記載のない作業の受委託及び標準額が当てはまらない場合
- 課税売上高が1,000万円を超える場合は、請負額に別途消費税が加算されます。
- 令和5年10月1日以降の受委託については、受託者が適格請求書等(インボイス)の交付を求められる場合がありますので、ご注意ください。
- 雇用労働作業において、食事代(賄い費)は含みません。
- 令和5年中に最低賃金が改定された場合は、改定後の最低賃金の額で対応するようお願いいたします。

※農地・農業者年金・農政問題等については
お近くの農業委員及び農地利用最適化
推進委員にご相談ください。

トピックス

平神谷地区 安全祈願祭



安全祈願祭が行われた平下片寄地内

農地整備の安全を祈願



関係者が集い農地整備の安全を祈願

昨年11月、平神谷地区の農地中間管理機構関連農地整備事業の安全祈願祭が平下片寄字南町地内で行われました。

当該地区の元の水田区画は10a程度。農道が狭小で大型機械導入による効率的な営農ができないことや、担い手への農地集積が進んでいないこと、老朽化が進んだ用排水路の漏水による水不足などが課題となっていました。

事業計画によると、受益面積は40.9ha(受益戸数123戸)、主要作物は、水稻、キャベツ、白菜などで、工事は令和8年度に完成する見込みです。

参加した関係者からは「この事業で整備される農地を最大限に生かし、収益性の高い農業をぜひ展開してほしい」と期待する声が多く聞かれました。

(撮影・執筆 志賀幸)



伝統工芸遠野和紙・楮保存会の皆さん



伝統工芸 遠野和紙 の技を守る

今回紹介させて頂くのは遠野地区に伝わる遠野和紙についてです。取材させて頂いた「伝統工芸遠野和紙・楮保存会」は、会員十数名、地域おこし協力隊3名も参加して、和紙の原料になる楮の木

の栽培から収穫、紙漉きまで頑張っています。和紙の原料は楮というクワ科の低木で、夏から秋にかけては、楮畑の草刈りをして日差しがよく当たるようにしたり、適度な本数に間引きしたりして、幹が太く皮が厚い楮を育てます。また、芽欠きをすることで枝が出來ず、皮をはく作業がしやすくなるそうです。収穫後は長さを揃え、大釜で蒸しあげ皮をはぎます

が、きれいな和紙を作るために表面の黒い部分は取り除きます。この表皮取りと言う作業は、一本ごと



和紙の原料、楮の収穫

に水にさらしながら皮をよく確認していくそうです。これは冬場の水仕事でかなり大変な作業だと思えます。それから水に溶かして和紙を漉くためにきれいな

なつた皮を細かくしなくてはなりません。その作業を打解と言いますが、木の棒でよく叩いて繊維を細かくし毛羽立たせません。こうすることで、漉く時に繊維同士が絡まって接着が強くなり、丈夫な和紙になるそうです。こうして遠野和紙は出來上がります。

完成した和紙は、市内の一般書道展へ提供されているほか、遠野地区の小中学校、高校、その他市内の一部の学校で卒業証書として使われています。子供たちには、心の一枚として大切に

最後に、取材させて頂いた楮保存会の会長の高木忠行さんから「もし興味がありましたら、会の活動に是非ご参加いただきたい」とのお話がありました。和紙の制作には人手がかかりますので人数は多いに越したことはないそうです。詳しくは(891211)までご連絡をお願いします。(撮影・執筆 生田目祥明)

編集後記

いよいよ稲作が本格化する季節となりました。作業に追われても、公道に泥土塊を残さないようご配慮よろしく願います。

農地利用調査をしていたところ、好間町の大畑地区に「水分神社」があることを知り参拝しました。水分神社は、流水を分配し、灌漑治水を司る神を祀っているそうで、各地方の重要な水源となる河川の上流や分水嶺に配置されていることが多いそうです。現在はこの近辺の地区で稲作を行う人は少なくなっていますが、もとはこの地区の農業に密着した神様なのではないかなと感じました。

また、トピックスで農地整備事業の安全祈願祭の話題でとりあげられた平下片寄地内では老朽化した用排水路の漏水のため、水不足が課題となっていたとのこと

編集委員

- 蛭田元起編集長・生田目祥明副編集長
- 志賀幸・田子耕一・岡村泰典
- 菅野綾・新妻信夫